

支援機器等教材活用実践事例

実践年度・タイトル		平成(30)年度 書字に負担のある生徒のiPadの利用
授業について	教科名等	<input checked="" type="checkbox"/> 国語 <input checked="" type="checkbox"/> 社会 <input checked="" type="checkbox"/> 算数/数学 <input checked="" type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input checked="" type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input checked="" type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input checked="" type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input checked="" type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input type="checkbox"/> その他()
	単元・題材名	各教科の授業全般
	授業の目標	
	学力の3要素	<input checked="" type="checkbox"/> 「知識及び技能」 <input checked="" type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」 <input checked="" type="checkbox"/> 「主体的に学習に取り組む態度」
学習集団と子供の実態	学校・学部・学年・人数	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 <input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input type="checkbox"/> 小学生 <input checked="" type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない (3)年 (7)人
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input type="checkbox"/> LD(学習障害) <input type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/> その他
	子供の困難さ	<input checked="" type="checkbox"/> 見ること <input type="checkbox"/> 聞くこと <input type="checkbox"/> 話すこと <input checked="" type="checkbox"/> 読むこと <input checked="" type="checkbox"/> 書くこと <input type="checkbox"/> 動くこと <input type="checkbox"/> コミュニケーションをすること <input type="checkbox"/> 気持ちを表現すること <input type="checkbox"/> 落ち着くこと・集中すること <input type="checkbox"/> 概念(時間、大きさ等)を理解すること <input type="checkbox"/> 学習(計算、推論等)すること <input type="checkbox"/> その他 書字を行うことは出来るが、時間がかかってしまうことがある。また、状況により自分で教科書やノートを準備する事が難しいことがある。また、腕をあげることが難しいため、前に出て黒板に書いて自分の回答や意見を発表する事が難しい。
支援機器等教材の活用について	活用の意図	Aコミュニケーション支援(<input type="checkbox"/> A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(<input type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援(<input checked="" type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input type="checkbox"/> C3社会生活支援) D実態把握支援(<input type="checkbox"/> D1実態把握支援) 書字に時間がかかるため、授業時間で板書を行うのが難しいので、それを補うためにiPadのカメラ機能で黒板を撮影した。 対象クラスはこのようなことが有効な生徒が複数いたため、それぞれが黒板を撮影するのではなく、アルバムの共有機能を利用してそれぞれが撮影した写真を共有することで負担の軽減を図った。
	使用した支援機器等教材の名称と画像	iPad 写真App 共有アルバム 
授業展開	授業展開・支援の手立て	初めのうちはそれぞれの生徒が各自で写真を撮影していたが、同様の目的の生徒が複数いたため、共有アルバムの機能を紹介した。 共有アルバムを利用することで誰か1人が撮影して写真を共有することが出来た。 最終的にはほとんどすべての授業の黒板が共有されることになり、授業の振り返りに利用できるようになった。 
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	指導当初は、ただ写真を挙げるだけであったが、子供たちのなかで徐々にルールができ、コメント機能を活用し写真に教科名や単元名を添えるようになった。 共有することにより、欠席したときの黒板も閲覧できるようになったことで、欠席生徒に対するフォローアップが、生徒同士でできるようになった。また、生徒自身各々による工夫も多くみられるようになり、例えば欠席した生徒を対象に、授業において書き込んだプリントを撮影し共有し、欠席した生徒に知らせるなどの活用例も見られた。 また家庭学習において分からない問題は共有し、分かる生徒がアドバイスを送るなど、学校外においても相互の学び合いが行われるようになった。 学習内容を中心とした情報の共有を子供たち自身が行っていくことによって、クラスでの活動の計画の資料や動画なども共有するなど様々な活用の仕方を自らで工夫するようになった。